

① 大分大がこのような方針を打ち出した理由を端的に三つ、記事から抜き出しましょう。

学生や教職員の健康増進
快適に学び働ける環境を整備
教育・事務の効率化



喫煙者を教職員に原則採用しない方針の大分大。校内は2011年から全面禁煙となっている＝大分市の巨野原キャンパス

大分大「喫煙者採用せぬ」

無煙環境を推進

大分大は23日、喫煙者を原則として採用しない方針を明らかにした。2007年から推進している「無煙環境づくり」の一環。学生や教職員の健康増進、快適に学び働ける環境を整備し、教育・事務の効率化を図るとしている。

大分大によると、非喫煙者の優先採用などを盛り込んだ選考方針を9月に定める。採用後に喫煙者と判

明しても罰則などはないが、産業界による禁煙指導を受けさせる。現時点で選考方針に基づいて採用したケースは今年3月末までに延べ計459人が受診している。県庁での定例会見で北野学長は「勉強においても仕事においても健康が一番。無煙環境をつくり、健康意識の高い学生を育てることが、地域社会に役立つ人材を育てることになる」と話した。

(2019年4月24日付朝刊1面)

健康面に配慮「世の中の流れ」 個人の趣味・嗜好「行き過ぎ」

喫煙者を原則採用しない方針が就職活動を左右するんだと意識し、たばこを吸うことを禁煙指導を受けることになる。健康面に配慮した「世の中の流れ」と評価する声がある一方、個人の趣味・嗜好を判断基準とすることに「行き過ぎ」と反発する人もいる。

大分大の方針に、学生や市民からは賛否両論が出てくる。健康面に配慮した「世の中の流れ」と評価する声がある一方、個人の趣味・嗜好を判断基準とすることに「行き過ぎ」と反発する人もいる。

喫煙しない理工学部3年の女子学生(2)は「民間企業でも禁煙を採用条件とする動きがある。学生も『喫煙者』を判断基準とすることにもならないか」と疑問を呈した。大学の方針は「安里葉冬」

煙が就職活動を左右するんだと意識し、たばこを吸うことを禁煙指導を受けることになる。健康面に配慮した「世の中の流れ」と評価する声がある一方、個人の趣味・嗜好を判断基準とすることに「行き過ぎ」と反発する人もいる。

大分大の方針に、学生や市民からは賛否両論が出てくる。健康面に配慮した「世の中の流れ」と評価する声がある一方、個人の趣味・嗜好を判断基準とすることに「行き過ぎ」と反発する人もいる。

② 左側の記事にある賛否両論を、簡潔にまとめてみましょう。

世の中の流れとして禁煙社会の加速を期待する声がある一方、仕事の能力とは関係ない嗜好を採用の判断基準とすることへの疑問もある。

(第一段落の「健康面」以後を抜き出しても正解です)

③ 大分大の方針についてあなたはどうか、意見をまとめてみましょう。

賛成、反対どちらでも、根拠を示して論を組み立ててみましょう。